



淀川愛好会 YODORIC NEWS

No. 89 2020年3月発行

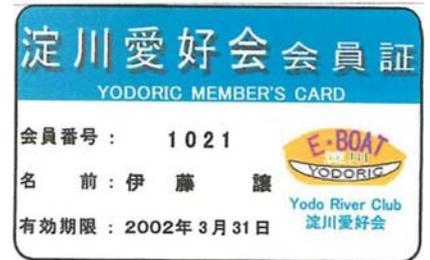
〈社会人の窓 9〉

新会長 あいさつ文「九頭竜川の思い出」

会長 伊藤 譲

今回、淀川愛好会会長を務めさせていただきます摂南大学の伊藤です。

私は、淀川愛好会の発足直後に澤井先生の勧誘で入会し、会員番号は「1021」です。つまり、21番目の会員です。その後、石田裕子先生が着任されるまでは、時々、お手伝いをさせていただきましたが、それ以降は幽霊に徹して来ました。



さて、私の出身は福井県大野市です。九頭竜川の上流から下流に遷移する荒島岳のふもとの農村で高校までを過ごしました。九頭竜川は古い文献では「崩れ川」と呼ばれるように流れが速く、岩が崩れるように流れる河川で、大雨の度に氾濫を繰り返していました。自宅は九頭竜川からは約500m離れていますが、大雨になると川を流れる岩のぶつかる音が聞こえてくるような荒々しい川でした。岩がぶつかって火花が散る様子が龍の目のように見えるので九頭竜川と呼ばれたという説もあります。しかし、小学校4年の頃、上流に九頭竜ダムが建設されてからはおとなしい水路のような河川に変わってしまいました。

それでも、ダム建設直後は一定の水量が保たれ、当時の小中学生の夏の遊びは川遊びが中心でした。私も川遊びに明け暮れていました。魚の種類は、ウグイ、アユ、アマゴ、ビシ（アラレガコ）などです。魚とりでは、「やす」と呼ばれる小型の鮎もりのような道具を手作りして、友達同士で道具自慢をしたりもしました。川遊びの師匠は東京の叔父でした。毎年8月に帰省してくるとほぼひと月の間、投網、刺し網と言った道具まで持ち出して、親せきと近所の子供たちを集めて、午後から始めて日没、深夜まで「漁」をしました。子供たちの中に、叔父からは「魚とり名人」の称号で呼ばれるような、不思議な能力を持つ子供がいました。彼の周りには自然に魚が集まってきて、魚が自ら捕まってくれるとしか思えないような魚とりの名人でした。彼の名前は龍一君と言ひ、九頭竜川の神様の化身ではないかと言われたりもする、夏の英雄でした。

それから半世紀、時代は流れて、九頭竜川上中流域では土砂が堆積して河道は狭くなる一方です。河原にまで柳などが繁茂して、一部はイノシシの隠れ家になってしまい、イノシシ対策の電気柵が張り巡らされています。このような危険な河川に変わり、少子化の影響も重なり、夏になっても、川から子供たちの声は聞こえず、アユ釣りの姿も上流域では見かけなくなりました。

九頭竜川と比べると淀川は水流が豊かで、周辺の人口も増加し、野生動物に占拠されることはありませんが、子供たちが寄り付きにくくなっていることには変わりありません。ところが、淀川愛好会の母体である「エコシビル部」には多くの熱心な若者があつまり、学内有数のクラブへと成長しています。淀川愛好会の皆様の活動が益々盛んになることを祈念しまして、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

(摂南大学理工学部都市環境工学科教授 教務部長)

イベント案内 (詳細は3ページへ)

○琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム 5月16日(土)12:30~17:00 OIT梅田タワー

○巨椋池流域見聞 2020 6月28日(日)10:30~16:30 宇治川オーブンホール & 「さすてな京都」

イベント報告

淀川愛好会 総会・新年会 2020

1月11日(土)に、寝屋川市駅前友呂岐水路沿いの和風居酒屋「安兵衛」で淀川愛好会の総会・新年会が開催されました。会員の方々と学生を含めた約20人の参加がありました。総会では澤井健二会長の新年挨拶から始まり、19年度の事業報告と20年度の事業計画が発表されました。20年度は5月16日に大阪工業大学OIT梅田タワーにて開催される琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウムの予告もありました。なお20年度の会長には伊藤譲先生、会計には佐藤大作先生に就任していただくことになりました。新年会では、会員と学生で寄せ鍋を楽しみつつ交流を深め、新年会の後には、寝屋川戎を参拝しました。20年度も多くのイベントが成功することを祈っています。(H・M)



澤井会長による挨拶

2019年度事業報告

日程	内容	開催場所
4月28日(土)	春のイベント	大阪ふれあいの水辺
5月18日(土)	琵琶湖・淀川流域圏 シンポジウム in 大阪	OIT梅田タワー
6月8日(土)	ホテル観賞会	関西創価学園他
7月27・28日(土・日)	近畿水環境交流会	京大宇治川OL
9月14日(土)	流域見聞 ①	巨椋池
11月17日(日)	流域見聞 ②	亀岡～嵐山
12月14日(土)	流域見聞 ③	木津川中下流～伊賀上野
1月11日(土)	総会・新年会	居酒屋・安兵衛
2月29日(土)	近畿河川フォーラム	摂南大学

2020年度事業計画

日程	内容	開催場所
5月16日(土)	琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏 シンポジウム in 大阪	OIT梅田タワー
6月6日(土)頃	ホテル観賞会	関西創価学園
6月・8月・10月頃	流域見聞 ①	巨椋池
	流域見聞 ②	琵琶湖
	流域見聞 ③	天若湖
7月・8月頃	近畿水環境交流会・ 淀川まるごと体験会	淀川・点野
1月9日(土)	総会・新年会	居酒屋・安兵衛
2月27日(土)	近畿河川フォーラム	摂南大学

令和元年度 第3回 寝屋川再生ワークショップ

2月17日(月)に寝屋川市役所で寝屋川再生ワークショップが開催されました。今回の議題は、寝屋川市香里園周辺における井戸水を使った環境用水の検討、友呂岐水路の活用における意見を各班に分かれて、発表を行いました。私の班では、友呂岐水路において、ブルーギルにより、在来種が減少、ヌートリアなどの住処となっていることが問題点となっていました。どちらも、駆除活動が不可欠であり、これからの市民活動の必要性を感じました。(M・K)

「日本水防災普及センター」お披露目会

2月29日(土)13時～13時半、摂南大学寝屋川キャンパス13号館コミュニティルームにおいて、日本水防災普及センターのお披露目会が約50名の参加のもとで行われました。このセンターは、昨年の19号台風の報を受けて、今、私たちに何ができるだろうかと検討した結果、行政と地域住民をつなぐ役割として、マイ防災マップやマイタイムラインづくりを支援したり、出前講座を行ったり、情報支援を行おうということで、12月18日にオープンしました。皆様のご入会をお待ちしています。事務局は大阪市中央区谷町2丁目2-20、大手前類第一ビル2階にある「CANVAS 谷町」に設置しています。現在は任意団体ですが、NPO法人の申請を行うため、5月16日(土)11時より大阪工業大学梅田キャンパスで設立総会を予定しています。(S・K)

(お問い合わせは office@mizubousai.org、事務局長 柳沼まで)



友呂岐水路の現状と課題の発表



お披露目会の様子

第4回 近畿河川フォーラム 兼 第22回 淀川討論会

2月29日(土)に摂南大学にて、近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会が主催する近畿河川フォーラム兼淀川討論会が開催されました。河川協力団体全国協議会の山道省三氏と、近畿地方整備局の豊口佳之氏からの現状説明のあと、京都大学防災研究所教授中川一氏が台風19号からみてきたものについて今後の洪水HMのあり方などを熱く講演されました。その後、参加団体から活動報告があり、ぽぽっぽくらぶと澤井先生のコラボで、川の歌をみんなで歌いました。

(K・Y)

3月・4月のイベントの中止

新型コロナウイルス感染拡大により以下のイベントが中止になりました。

- ・寝屋川源流ハイキング
- ・桂川流域クリーン大作戦
- ・点野拠点活動
- ・友呂岐舟下り
- ・大川クリーン活動

今後のイベント詳細

琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム

日時：2020年5月16日(土) 12時30分～17時

場所：大阪工業大学梅田キャンパス (OIT 梅田タワー) 2階セミナー室 203

内容：12:30 ポスターセッション

13:30 講演 治水：山本佳也氏(近畿地方整備局河川調査官)

文化：飯塚隆藤氏(愛知大学准教授)

16:00 総合討論

17:00 閉会

主催：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会

共催：摂南大学 協力：学校法人常翔学園



「川はだれのもの」の合唱



琵琶湖・巨椋池・天若湖 3つの水たまりプロジェクト

巨椋池流域見聞2020

昨年10月、京都市伏見区横大路の京都市南部クリーンセンターに環境学習施設「さすてな京都」がオープンしました。その展望台(高さ66m)からは、巨椋池干拓地を含む360度のパノラマがご覧いただけます。

日時：2020年6月28日(日) 10:30～16:30

行程：10:30 「京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー」集合

10:30～12:00 趣旨説明および「巨椋池流域模型ビオトープ」見学

12:00～14:00 昼食および移動

14:00 「さすてな京都」集合

14:00～15:30 「さすてな京都」見学

15:30～16:30 生涯学習講座

「巨椋池の魅力～模型製作を通して学ぶ地域環境～」

16:30 「さすてな京都」で解散

主催 淀川愛好会、水辺に学ぶネットワーク、天若湖アートプロジェクト

参加費 無料(昼食は各自持参)

申し込み 6月13日(土)までに淀川愛好会事務局へ



〈学生の窓 9〉

学生生活 6 年間を振り返って

奥西 健斗

私は 2014 年に摂南大学に入学し、大学院に進学しました。研究室は環境に興味があり環境系のゼミである生態環境学研究室(石田ゼミ)を選びました。

大学生活で一番記憶にあるのは、巨椋池遊水地構想についての研究に携わらせていただいたことです。巨椋池地域は過去に堤防の決壊で大きな被害を受けており、水害危険度の高い地域になっています。現在では市街化調整区域に指定されていますが、本来は建設できない住宅や介護施設等が広がりつつあります。

そんな中で私たちの研究では巨椋池干拓地を遊水地にして、治水面で活用するとともに環境にも配慮するといった研究を解析ソフト等を使って検証してきました。学会等で発表もさせていただき、発表するたびにいろんな方から多くの質問をもらい、この研究の面白さや大切さ、期待の大きさを感じていました。

しかし、研究を進めるたびに壁にぶつかりなかなか前に進めないことが多々ありました。私にははじめ人に聞くということが得意ではなかったため、一人で抱え込みなかなか前に進めないということがありました。そこで、このままではいけないと思い、先生方や共同研究者の方々に意見をもらい指導をいただくようにしました。また、この研究のおかげで多くの人と出会い、会話を通じてたくさんの意見や思いを聞くことができ、本当に夢のある研究をさせていただいたなど感じています。まだまだこれからの研究だと思いますが、この先何年後、何十年後に巨椋池遊水地が活躍したというニュースや報告があることを楽しみにしています。

(摂南大学大学院理工学研究科社会開発工学専攻 2 回生・就職先：公益財団法人 河川財団)

会員募集・寄稿・会費納入のお願い

本会では、淀川に興味・関心のある方の「ご入会」をお待ちしております。ご入会を希望される方は淀川愛好会事務局へ随時ご連絡下さい。「社会人の窓」への投稿も随時募集しています。

会員の方は、今年度の年会費 3000 円（学生 1500 円）を納入していただけるようお願いいたします。

会費は事務局にお届けくださるか、下記の口座にお振込みください。

銀行振込口座：りそな銀行 寝屋川支店 普通預金 口座番号：2230030 口座名義 淀川愛好会

編集後記

魅力ある淀川をより深く知り、親しみ、愛することを通して親睦を深めながら共に行動する淀川愛好会は、平成 9 年に設立して以来、井上治先生、久保勝司先生、海老瀬潜一先生、頭井洋先生、道広一利先生、澤井健二先生と、摂南大学の素晴らしい先生方が歴代の会長を就任して来られました。2020 年度からは新体制として摂南大学理工学部教授・教務部長の伊藤譲先生が会長に着任されることになりました。そして自らの「会員番号 1021」を示していただき、淀川愛好会会員証が存在していることを思い起こさせてくれましたことは凄いことでもあります。

「日本水防災普及センター」を立ち上げた主力メンバーのひとりである澤井健二前会長は、たくさんの団体の要職を歴任されており、退任後も淀川愛好会に新たな気持ちで携わっていただくことを期待する他ありません。

昨年の台風 19 号が様々なところで氾濫する大きな被害をもたらした構造契機は原因が存在して結果が存在するのが自然であります。つまり、災害の結果が一見「偶然」にみえるものでも視点を変えてみると原因が「必然」と見えてきます。いろいろな視点から災害を取り上げている寺田寅彦著の「天災と国防」の本の中に学ぶべき点が多々あるような思いがしてなりません。

今年の流域見聞の行事の中で天若湖・琵琶湖・巨椋池の 3 つの水たまりプロジェクトに加えて大阪湾を含んで考えるべきかの議論がありました。歴史に培った風土における淀川流域を、もう一度「人間中心」ではなく人間と自然との関係を見直し自然環境の理念に基づいた「棲み分け」を考える新たな場になることを痛切に感じる思いをしております。

最後に新型コロナウイルスによるイベントの中止や新たなイベント企画に速やかに対応してくださいました学生諸君。1 年間通して素晴らしい「ヨドリックニュース」にして頂いたことに感謝申し上げます。ありがとう。

編集長 岡崎善久（岡崎善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：http://www.setsunan.ac.jp/civ/~yodoric

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp